



機能安全規格 ISO 26262 ASIL-D に準拠した ソフトウェア開発プロセス認証を 3社同時取得

～国際認証規格への準備完了～

パナソニック株式会社

株式会社 東芝

株式会社 ヴィッツ

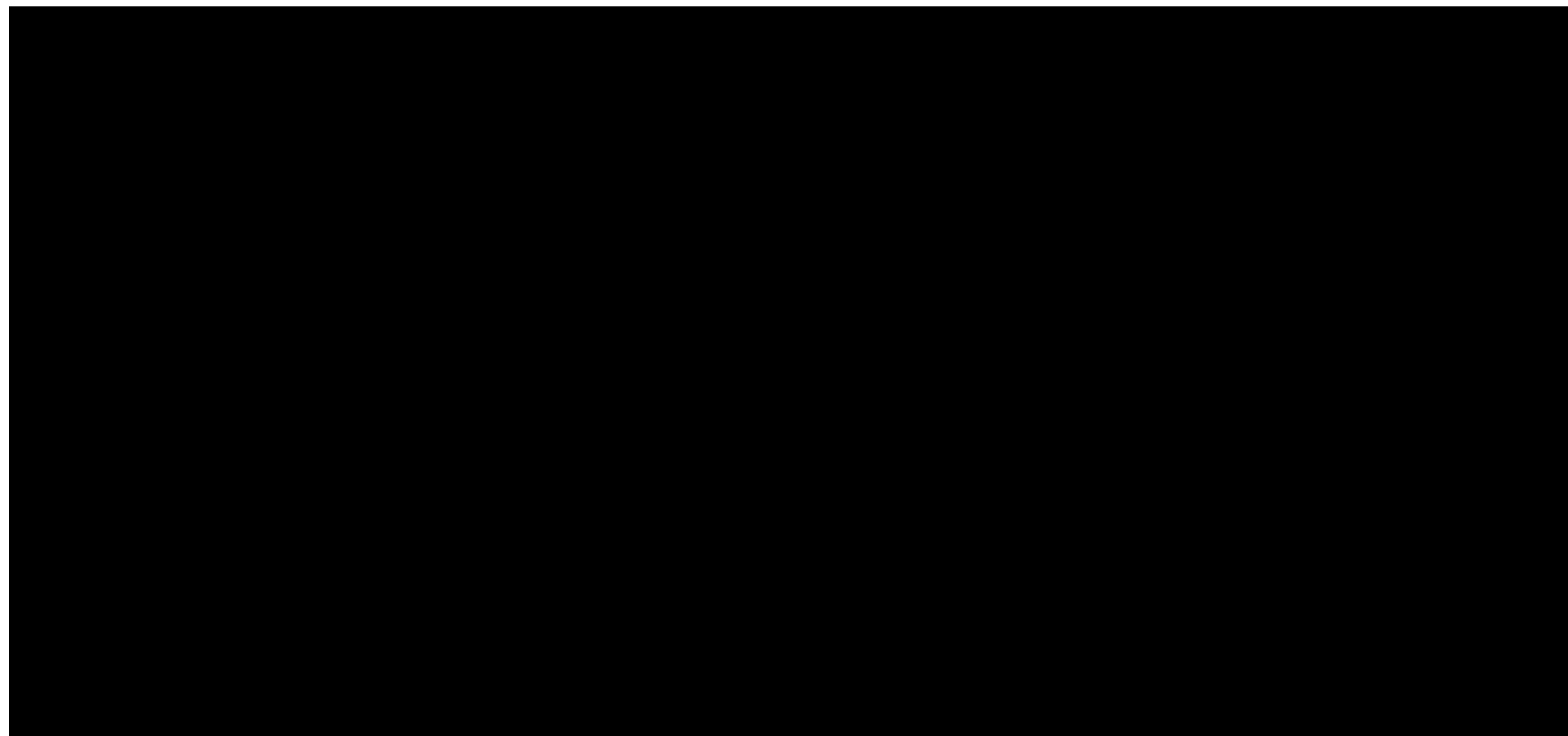
パナソニック株式会社 中川雅通
株式会社東芝 社会インフラシステム社 山内信之
株式会社ヴィッツ 服部博行

Agenda

1. ISO 26262 ソフトウェア開発プロセス認証取得に関する説明
2. 今回の取得活動スキーム
3. 各社の事業展開について
4. ISO 26262 の海外動向等について (TÜV SÜD Japan)
5. 質疑応答

機能安全規格 ISO 26262 プロセス認証取得成功!!

株式会社ヴィッツ、株式会社 東芝^[1]、パナソニック株式会社の3社は、機能安全規格 **ISO 26262 ASIL-D** 開発が可能なソフトウェアプロセス認証の取得に成功しました。



取得時期:

2012年2月末～3月中旬

国際認証機関:

TÜV SÜD

[1] (株)東芝は社内カンパニ2社でそれぞれ認証取得

開催場所:

機能安全規格 ISO 26262 プロセス認証取得に関する発表

機能安全規格 ISO 26262 とは

- 欧州が中心となって策定した、自動車向け電気/電子/プログラマブル装置を対象とする安全規格
- 安全度水準 (ASIL; Automotive Safety Integrity Level) は4段階 (ASIL A ~ ASIL D)
- 機能安全規格の目的: 説明責任
 - 「対象製品がなぜ安全を担保できる製品であるかを客観的に説明する」“説明力”が重要
- 機能安全規格の要求:
 - 製品の安全を担保する技術的な対策
 - 安全を客観的に説明するエビデンス

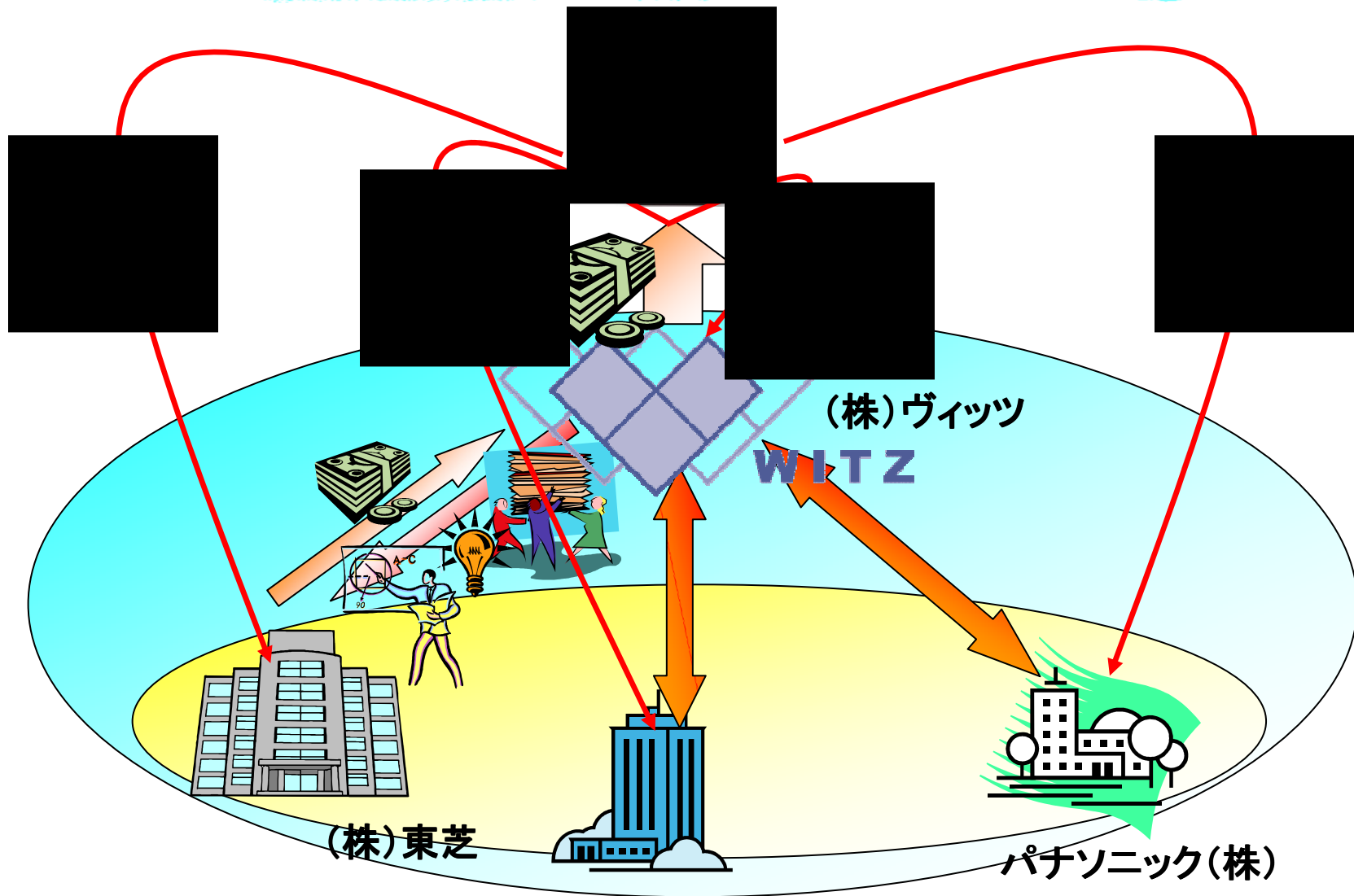
ISO 26262ソフトウェア開発プロセス認証とは

- 独立した第三者機関が、以下を満たす企業であることを認証するスキーム
 - ソフトウェア開発プロセスに ISO 26262 規格が要求する安全なソフトウェア開発活動が含まれていること
 - ソフトウェア開発がプロセスに従い確実に実施できること
- 認証取得のメリット
 - 開発プロセスに準拠して開発されたソフトウェア製品は、ISO 26262 が要求する安全度レベルを満たすソフトウェア製品であると主張することができる。
 - セットメーカーがソフトウェア受入検査において、ISO 26262 の検証を大幅に削減することができる。
 - 認証取得企業は、自社の開発能力が ISO 26262 に準拠可能であることを、国際市場で認知してもらえる。

国際認証機関 TÜV SÜD を選んだ理由

- 国際認証機関が必要な理由
 - 客観的に安全を説明するのが容易になるため
 - 自己宣言では、客観的に十分な判断がされたとみなすことが難しい
- TÜV SÜD を選んだ理由
 - 国際的に機能安全認証実績が最も多い認証機関の1つである
 - 日本国内での知名度が最も高い認証機関の1つである

ISO 26262 プロセス認証取得体制



スケジュール実績

- 2011年4月:3社の相互協力による認証取得活動を開始
- 2011年6月:TÜVとのテクニカルミーティング@ドイツ
- 2011年11月:TÜVとのテクニカルミーティング@ドイツ
- 2012年1月:最終監査@日本
- 2012年1月末:合格判定
- 2012年2月末:認証取得

今後の事業展開: ヴィッツ

今回取得したISO 26262プロセス認証ならびに、
以前取得したIEC 61508プロセス認証経験を活かして、
国内企業向けに、安価で短期間の対策支援を行います。

- ISO 26262 プロセス構築支援
- ISO 26262 認証取得支援
- 機能安全認証に関わる支援全般
 - 対象: ハードウェア、ソフトウェア、コンセプト、プロセス
 - 分野: 自動車、工作機械、ロボット、等

本発表への問い合わせ先


本認証および今後の活動についてのより詳しい内容は、以下までお問い合わせください

ウィッツへの問い合わせ先

技術本部: 服部(hat@witz-inc.co.jp)

森川(morikawa@witz-inc.co.jp)

052-223-7570



ご静聴ありがとうございました